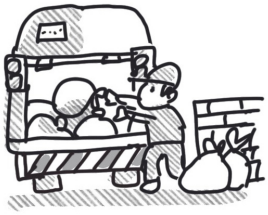
コロナ禍における資源業界の動きについて

コロナ感染のリスク そして 資源物の滞留

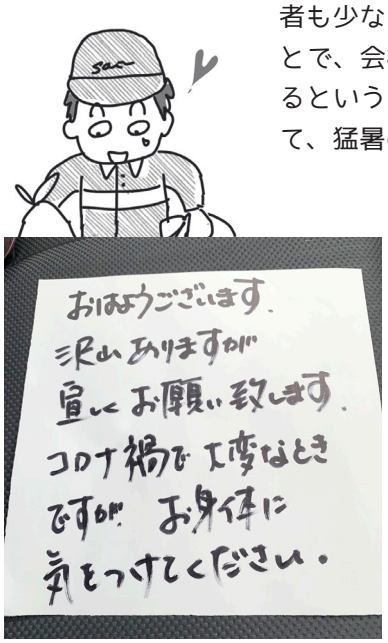
東多摩再資源化事業協同組合
専務理事　紺野 琢生

東村山市で資源回収業を営んでいる紺野でございます。

私どもが携わっている資源回収や再資源化の仕事は、生活に欠かせない業務ということで、緊急事態宣言中も休業することなく、感染リスクを負いながらも対策を十分行って作業をしています。エッセンシャルワーカーとして認知して頂くようになり、市民の皆さまから激励のお手紙やお言葉をかけていただくことも多く、回収作業員は大変ながらも誇りをもって作業を行っています。本当にありがとうございます。



ただ、作業員の中には、感染リスクに対して恐怖心を抱いている者も少なくありません。自分が感染することで、会社や組合、家族にまで迷惑をかけるという思いが強いのだと思います。そして、猛暑の中、長袖など肌の露出をなるべく少なくし、ゴム手袋、マスクを着用しての作業は本当に過酷で、今年は熱中症で気分が悪くなったというケースが例年より多く発生しています。



また、資源物のリサイクルにおいては、コロナ禍による消費生活や生産、物流の変化に対する影響を大きく受けています。外出自粛の影響を受け、家庭からの発生が増えた一方で、国内外の多くの産業で都市封鎖により工場が停止したため、資源物の需要が低迷、価格も下落しました。

このように、いつまで続くか分からないコロナ禍の中において、リサイクルを円滑に進めていくためには、市民の皆さまのご協力が不可欠です。以下、ポイントを整理いたしますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

「マスクはビニールに入れて可燃ごみにしてください」

不織布マスクや使用済みのティッシュペーパーが雑がみなどの古紙に混入しているケースが見られます。また、布マスクが古布に交じっているケースもあるようです。

回収作業員への感染症防止はもちろんですが、そもそも不織布は紙ではありません。汚れているものもリサイクルできません。使用済みのマスクは、ごみの収集作業員が誤って触れることのないようにビニール等に入れた上で、燃やせるごみに出していただきますようお願いします。

「古紙・古着は一度に大量に出さないで下さい」

新型コロナウィルスの世界的な感染拡大により、各国で都市封鎖が行われ、古布の主な輸出先であるマレーシアやフィリピンでも３月に工場は閉鎖、港にコンテナが滞留するような事態となり、古布の輸出が一時停止し、４月以降、古布業者から古布の引き取りを断られるケースも出てきてしまいました。

一方で、外出自粛要請を受けて自宅におられる市民の皆さまが、衣替えを早めたり、断捨離をしていらない衣類を出された関係で、４月の古布の回収量は昨年比で１．５～１．８倍に伸び、古布問屋の倉庫がパンクする事態となりました。

古布の回収自体を停止し、焼却処分に切り替えてしまった自治体もあります。５月８日に、マレーシアで経済封鎖が解除され少しずつ動き始めたことと、６～７月にかけての長雨により古布の回収量が減少し国内の在庫を整理できたことで、現在は古布の流通は正常化しました。

ですが、４～５月のことを教訓に、古紙・古布は、まとめて出さないで少しずつ出すようにお願い申し上げます。（古紙は２～３束、古布は１～２袋程度までだと助かります。また、重過ぎるとトラックに乗せるのが大変なので、１袋に詰め込みすぎないようにしてください）

「古紙回収の非常事態も継続中」

古紙については、昨年の秋ぐらいから中国の輸入規制や米中の貿易摩擦の影響で、市況が悪化しています。また、中国が今年いっぱいで古紙の輸入を停止することが決まっておりますが、2019 年度の輸出量の半分は中国が占めており、ベトナム、インドネシアといった他の東南アジア各国に全て振り替えができるのか、そして価格的な課題も懸念されています。

一方国内メーカーはというと、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、通販や日用品向けの段ボールの需要が伸びた一方で、機械や部品向けの段ボール、お土産や贈答品などに使う白板紙、情報用紙などの需要が減少し、国内での古紙の需要も不透明な状況です。

回収業界では、古紙価格の下落により、古紙持ち去り業者が激減したという効果もあった半面、正規の業者の経営も圧迫することになり、集団回収などの継続が困難になるケースが増えてきました。神奈川県横浜市では、行政回収に代わる形で行われている集団回収が広範囲に渡って放棄され、資源回収がストップする事態も発生しました。

業界団体としては、東京都資源回収事業協同組合が１月に『集団回収事業非常事態宣言』を発表し、古紙の市況が回収コストを大幅に割っており、回収業者への支援が必要であると訴えました。こうした事態に業者助成金の創設や増額を実施した自治体もありますが、コロナへの対応が優先される中、予算がこちらまで回らないところも多いようです。

集団回収は行政回収より低コストだといっても、ここまで古紙相場が下落しては回収コストを賄えません。リサイクル意識の向上、地域コミュニティの形成に寄与するシステムだと言われていますが、回収業者が回収に行けなくなれば集団回収は成立しません。市民の皆さまにおかれましては、回収業者から回収頻度や日程、回収場所の変更などの打診を受けた場合は、ぜひ相談に乗っていただければと思いますし、集団回収を守るために、回収業者への支援を自治体に対して働きかけていただけると助かります。

また、こうした古紙の余剰感を背景に、製紙会社からの古紙の品質基準も厳しくなってきており、特に雑がみ類については、選別の悪いものを一部受け入れ拒否する問屋も出てきています。

折からの市況の悪化にコロナ禍が相まって、資源物全般に引き続き厳しい状況ですが、先ずはごみ化を防ぐ緊急対策が必要です。市民の皆さまにはさらなる分別の徹底をお願いいたします。

さらりと書くつもりでしたが、長々とお願いばかりになってしまい恐縮です。どの業界も皆さま大変だと思いますが、コロナも熱中症も吹き飛ばしてがんばってまいりましょう。